

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人錦秀会 グループホーム 清泉
(ユニット名)	桜 ・ 山吹
所在地 (県・市町村名)	大阪府 堺市南区豊田1748番地2
記入者名 (管理者)	口 羽 敦 子
記入日	平成 19 年 09 月 08 日

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活の活性化を図る為の、小さな積み重ねが、継続して生活のなかに根付いてきていることが、最近の清泉の特筆すべきことです。朝は、朝日を浴びて中庭でラジオ体操をすることから始まりますが、テーマ曲は季節に応じて元気良くアップテンポなもので、今や、これは、ラジオ体操の始まりを告げるだけでなく、利用者様にとっては、9時という時刻であり、中庭へ出るという動作に結びついています。芝生を囲んで二つのユニットのお仲間がきょうも元気なのが確認できます。朝顔がきれいに咲いたのにも気がつきました。外は暑いのもわかります。身体を動か

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の「やさしく生命をまもる」という理念を共有。グループホームとしては、利用者様が主体的に生きる力を最大限引き出す為の手助けをすることで、利用者様、家族様からは人間のすばらしさを教わり、職員も生き甲斐、働き甲斐につながっていくことが出来る。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	①利用者様、家族様への安心、安全の提供 ②地域社会における役割遂行の努力 ③その人らしく暮していただく為の尊厳の遵守	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者様は、個々に手助けの質や量を考えて支援しなければならず、職員の側に個別性と不平等の違いが、きちんと意識化され、説明できるよう努力している。	○ 毎朝の申し送り時に、本の輪読等で勉強会を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの廻りには沢山の桜の木が植えてあり又、側には小谷城跡もあるので隣近所の方が散歩に来られご挨拶会話ができています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り、幼稚園の運動会等に参加させて頂き、又ホームの花見会、創立記念等にご招待し、交流を深めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣接の小谷城跡へは年間を通じてこられる方も多いため、雑草とり落ち葉、枝きり、清掃等環境美化に勤め、信号のある交差点近くの敷地には花を植えて季節に彩りを加えている。	○	交差点周辺のゴミ拾いなど、少しずつ環境美化の範囲を広げ地域に貢献して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常のサービス提供にあたり理念に合致していない事があれば、不適合報告書を作成し、話し合い改善に取り組んでいる。又年1回の評価はサービスの質を振り返る機会として、職員全員で見直している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。情報交換、話し合いによって、良い情報が得られれば実際にサービス向上に活かしている。	○	今回の評価後には運営推進会議のメンバー率直なご意見を聞かせていただき、サービスの質の改善に活かしていきたいと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は多忙な部分もあるが、前向きな意見を明解に示してくれるので、地域のグループホーム8ヶ所の情報交換会で、どこかが市町村担当者の助言を得ていると共有でき有効活用している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームにも実際必要な方がおられた(2名)為、成年後見制度を活用し支援することが出来た。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学会研修等に参加し、スタッフ全員が共有し防止に努めている。勉強の成果を活かし入居の相談でも状況判断できる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に解約の際は家族の方に安心して納得していただけるよう、法人の機能を最大限活かしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議には、毎回利用者様の代表(交代制)の方にも出席していただいている。どのような事でも発言していただき、出席者全員に聞いていただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に新聞を発行し、お誕生日会やボランティアを招いてのレクや行事で楽しんで頂いている所をお知らせしている。又ご家族が来訪された時にはケアマネージャ等が個別情報について話をさせていただく。金銭管理に関しては、毎月15日に個別に詳細を郵送している。	○ 定期の新聞以外に臨時で新聞を発行し、行事等の予定をお知らせし、家族様の参加を増やして頂きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者家族代表(ユニット1名)、入居者代表、地元自治会長、有識者、行政職員を招いて意見の交換をしている。それ以外の苦情等の機会については、受付担当者名を掲示したり重要事項説明書に記載して入居時にお渡ししている。	○ 家族会の立ち上げについて、アンケート調査を行い、具体化を検討していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全職員によるユニット合同ミーティングを開催し、運営に関しても意見を聞き、反映させている。また、母体病院のトップと当ホームの管理者、ケアマネージャ、ユニットリーダー(2名)による運営会議は、原則毎月20日に開催される。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常の勤務を職員で対応するのは当然のこととして、特別なプログラムのある時も、出来るだけ職員で応援態勢を組めるよう、日頃から協力態勢を整えている。又、緊急時は母体組織の応援も得られる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者様との馴染みの関係を日頃大切にしつつ、毎朝の申し送りや介護日誌で、個々の利用者様に関する情報を共有し、精神心理的な配慮を大切にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修では全職員が満遍なく参加できるように日程が組まれている。その他の研修においても情報提供、紹介、推薦等により参加を勧めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、介護支援専門員は地域のグループホームの情報交換会に2ヶ月に1回参加。会合を通じて、他施設イベントへのお誘いや見学の要請等、積極的に受け入れている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者様の住まい＝仕事場なので利用者様優先となる。勤務シフトで月に1～2回は3連休がとれるように工夫している。	○ グループホームという事もあり、スタッフだけの休憩がとりにくいが喫茶コーナーの作り方等で職員にとってもリラックスの図れる環境を検討していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の意欲を大切に、希望する外部研修は勤務に支障のない限り受講できる。またISOでは、全職員が業務内で研修に参加できるようプログラムされている。福利厚生面の施設利用も十分整っており労働意欲につながっている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人からの訴えや要望には出来るだけ添えるように、ホームで検討し努力しているが、運営目的や方針に照らしてご期待にそえない場合もあり、納得していただけるよう十分な説明をさせていただく。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用の相談は、まずお電話で入ることが多いが、グループホームの雰囲気のご理解を含め、お越しいただいて面談することを大原則としている。その上で、ご家族のニーズに見合った対応をさせていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族のニーズが当グループホームの条件に合致しなくとも、色々なサービスのパターン等、提案させていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用が決まるまでにご本人、ご家族に納得、安心していただけるよう「おためし」という形で利用していただいたり、見学の際、お茶の時間を一緒に過ごしていただいたりして、情緒的な面で馴染めるかどうかを大切にみさせていただいている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の生活歴、趣味等を職員も共有し、日常の対話の中で、ご本人が主役と言う場面作りを心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がみえた時は、担当職員、ケアマネージャー、ユニットリーダー等が中心となって、日頃の情報交換やニーズの確認を行っている。また、できるだけ、居間、食堂でお茶をしながら雰囲気的な理解をふかめていただく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族関係に問題のある場合は、あせらず、ご本人の環境適応を第一に、双方に安心感を持っていただくところから、次の段階を検討していく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の環境適応のご様子を、新聞、手紙等でお知らせするとともに、日常生活のプログラムや行事で、ご家族、友人に参加していただきやすいもののご案内をし、なじみの関係を深めたり、確認したりしていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の方ばかりのため、相互理解が困難な部分も多く、職員が場面転換を図ったり気の合う方に声かけしてペアリングを試みたりしている。	○	グループが固定して孤立する方が出るようであれば、食事のテーブル配置を換えて雰囲気一新を図る。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等で契約終了となった場合でも、同一法人の医療機関をご利用いただくことも多いので、ご本人、ご家族と、できるだけお会いする機会をもち、ご相談があればお役に立つ努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	非常に深刻な内容や、相手のある問題、利用者本人の能力にあまる金銭の絡む問題の場合は、一見、本人本位と思えない方向性であっても、その時々社会資源を最大限活用して解決に努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの情報把握に終わらず、毎日の生活行動、人間関係、まだお会いしたことのないご家族に関する話も注意深く伺う。発言が少なくあまり活動的でない方ほど、注意深い観察が必要と心得る。	○	生活記録のこまめな記入と、勤務時の確認。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事量、水分摂取量、排泄回数、体重変化、バイタルサイン等で毎日の心身状態を把握し、個人の病歴、禁忌事項とのすり合わせを怠らない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の現在の生活情報を十分提供した上で、キーパーソンの方と十分な話し合いの時間をもって、ケアプランを見直すよう心がけている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が見られた時は、まずご本人と話し合い、その後、ご家族等必要な関係者と話し合うようにしている。	○	関係者が一堂に集まることはなかなか困難であり、現実には個別の話し合いをケアマネージャーが行ないながら、すり合わせの作業をしているので、その経過をサービス担当者会議の記録に残すことにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式を検討し、新しく生活記録Ⅰ、Ⅱを作り、職員の負担を最小限にして記録漏れのないようにし、かつ申し送りによって情報を共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	誕生日にはご本人の希望のプレゼントを買う為に、一緒に買物に行く事を3年間継続。又、医療連携体制を充実させ、利用者、家族の方に安心を提供する努力をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に行われる運営推進会議に地域の方々に参加していただくことで、協働を目指している。特に、消防、博物館、保育園、小学校にはお世話になることが多いが、地域に協力できることを増やしていきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在はおられないが、デイケアの利用で在宅介護支援センターと連携したり、NPO法人を利用したことがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は無いが、必要が生じれば協働する。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前に、よく相談し、当ホームへの往診医(内科・精神神経科)、母体法人の医療機関等、ご希望に添えるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を保ち、決してプライドを傷つけるような声かけ対応をしないように心がけている。又個人情報保護法関連の研修は年1回全員が受講している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	無理強いはず本人が楽しんで出来る事をして頂く。決めてしまうのではなく、選んで頂ける事を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己のペースで過ごしていただける事を優先し、ゆとりのある日常生活を過ごして頂く様にしている。	○ 食後の洗い物が苦にならない方、要領よく他人に押し付ける方等おられるので、共同生活上調和をはかる為の工夫や、生きる力を引き出す工夫をして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容についてはボランティアの美容師・理容師が2ヶ月に1回来て、無料でカットして下さる。毛染めができないため、それだけご家族の協力をお願いしている。服装に関しては、乱れや汚れ、サイズ違いは、プライドを傷つけないように声かけして対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については野菜の下ごしらえ(加熱するもの)盛り付け等して頂いているが、食中毒等のニュースが出ると自粛となる。あと片付けは原則「自分の食事のあと片付けは自分で」ということになっている。	○ 食事を五官をとおして楽しむという目標を掲げ、旬の食材、味、匂い、器や盛り付けの季節感、会話、BGM等総合的に取り組むことにチャレンジしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居条件で煙草は認めていない。望む方にはお酒は晩酌の形で認めている。コーヒー紅茶は毎日のティータイムで希望に応じ、毎週火曜日にはボランティアの方の協力で本格的なコーヒー、紅茶、抹茶を楽しんでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間誘導、排泄パターンの把握等たゆまぬ努力を続け泌尿器科的治療も試みてきたが、徐々に機能低下が進行し、認知症による周辺症状の顕在化してきた方もおられる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には1日おきに、入浴していただくようになっているが、その日によって柔軟に対応できている。又入浴剤使用で香りやしっとり感も楽しんでいただいている。	○	脱衣室の温度、湿度の管理を快適にして多様な状況に対応しやすくしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時刻の1時間前ぐらいからエアコンを使用して室温調節をしているが、個々人の習慣で自室で遅くまでテレビを見る方もおられる。居間のテレビはだいたい21時半ごろまでで終了としている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティア(カラオケ、習字、喫茶、お点前、ヨガ)の方々によって、満足感や楽しみを感じ取ってもらえる様支援している。	○	散歩やおやつや食事を戸外でとるなど小さな事で気分転換をはかる努力をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの利用者様は少額のお金を持っておられるが、公衆電話の利用程度の支援であり、健康まつりのバザーで買物をされる場合はホームが立替え支払いをしている。	○	ご自分で好きな物を買う楽しみを体験して頂く事は良いと思うので方法論を検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1人ひとりとはなかなか現実には無理だが天気とかその日の予定がゆるせばなるべく外出をするように心がけている。	○	1対1の外出も試みている。その場合病院バスや送迎のみの車をできるだけ使用するようにすれば、足と費用の問題はクリアできるが、職員を1人確保する方法を話し合いたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スタッフが中心となり、年2回のバス旅行を実施している。遠出ではなく近隣への外食なども行っている。家族様からの連絡があれば外出・外泊をして頂いている。	○	行事を前もって家族様にお知らせする事で外出支援の機会は増やせるので、新聞を活用して機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在施設(山吹)では年賀状、暑中見舞いを利用者様に出来る限り出していただけるように支援している。公衆電話の使用については、手順、視力の問題、音量のことで支援している。	○	手紙は少し無理があると思われますので、ハガキを利用して季節の挨拶以外で日々の生活の様子も伝えるハガキもやって行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族様帰宅時のお見送りの時、再度来訪して頂ける様な声掛けを心がけている。ごあいさつや家族様との会話も進んで行うように心がけ雰囲気作りにも工夫している。	○	御家族様にも、友人や馴染みの方々への声掛けをお願いすることも良い事かもしれないので職員で話し合ってみたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はいっさいせず、見守り等で状態に応じ対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関に鍵はかけず、自由に入出入り出来る様にしている。玄関は出入り時にチャイムで分かるようにし、チャイムが鳴れば様子を確認し状態に応じ見守り声掛けを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず常に利用者様一人ひとりの様子観察をし、目の届かない所におられる時は所在を確認し、プライバシーに配慮しながら安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針やはさみなど注意の必要な物品は、必要な時に利用者様の状態に応じて渡し、使用後はスタッフが管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎朝の申し送りの情報を中心に、マニュアルに基づいたリスクマネジメントの取り組みを喚起している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時は直ちに医師に判断を仰ぎ、早急に対応を行っている。夜間時は全職員が初期対応を学び、又手順を記載したマニュアルは全職員が分かる場所に置いてある。	○	入職時研修だけでなく、初期対応の方法を定期的に研修していくようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による訓練は年2回。2ヶ月に1回は自主訓練で誘導の注意点・通報の手順を忘れないようにしている。	○	119番への緊急通報装置だけでなく母体病院の防災センターへの緊急通報ベルもあり、マニュアルは壁の目立つ所に貼って確実性を図っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族様には個々の利用者様の状況に応じたリスクについて説明をし、日頃からお話をして頂けるようお話をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日バイタルチェックをする。</li> <li>・顔色全身の皮膚を観察する。</li> <li>・便のチェック(便の色)</li> <li>・医療機関との連携</li> </ul>	○	生活記録のこまめな記入と、勤務時の確認。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬の分包時2人で復唱しながらケースに入れる。</li> <li>・服用して頂く時、氏名日付け、朝昼夕眠前を声を出して確認する。</li> <li>・薬の飲み忘れ誤薬を防ぐ</li> <li>・発疹、発熱、胃腸障害、ふらつき、のどの渇き眠気等の副作用に注意する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処方された薬の種類や服薬方法について情報を得ておく。</li> <li>・薬の副作用について、かかりつけ医師に聞いておき身体の観察をする。</li> </ul>
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維、水分の摂取に十分に注意し、生活記録に記載しているが、最近では毎朝9時から全員でラジオ体操をし、運動にも配慮している。	○	腸閉塞の既往症等に充分気をつけて観察できるようにしたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前食後のうがいの声掛け、就寝前の歯磨き、義歯の手入れ、ポリデント等、口腔ケアの支援を行っている。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下機能の低下を防ぐ為に口の中のマッサージ、口の閉鎖運動を促す。</li> <li>・唾液の誤嚥でも嚥下性肺炎になるので、口腔ケアには十分に配慮していきたい。</li> </ul>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分の摂取量を記入する。・食事時間や内容を記入する。 ・食事中のお茶はもちろん、食後にコーヒー等の飲用(1日1500ml以上確認)も勧める	○	・栄養バランス、嗜好、味、彩り、雰囲気作りに気を配り、美味しく食べやすい食事作る。 ・塩分を控え、出し、薬味で味付けをする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症予防の講習を定期的に行っている。 ・予防接種を受ける ・ハイター液、用具を常時準備している。 ・手洗い、うがいの励行をしている。 ・来訪者の方にも手洗い、うがいの協力をお願いしている	○	・菌は乾燥に強く、部屋の埃の中にもいるので、床壁を含め部屋を清潔にする為にも利用者様にだけ掃除をしていただかないで、スタッフが時々完全に掃除をする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・1日の最後に必ずまな板包丁ふきんを消毒 ・まな板包丁を食品別にする(肉、野菜、果物) ・食品の表示(期限を確認) ・生物は控え加熱する。	○	食材業者の業務内容を再チェックし、新鮮で安全な食材を確保するよう近日中に結論を出したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や門扉の周辺には出入りを妨げるものを置かないように、日頃から配慮している。又、外から見ても目を楽しませられるように、季節の花木を絶やさないう手入れにも気を配っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろいだ雰囲気、仲間同士の楽しい空間、快適な温度、季節感や良い趣味を感じさせるもの等に配慮し、特に生花は野の花でも、生き生きとした美しさを皆で感じられることを身上としている。	○	食堂の排煙窓は時刻によって眩しさにつながる事があるので、熱線反射、紫外線カットフィルムのコーティングを検討し、快適性を高めて行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	設計の段階から、このような空間の必要性を感じ、二つのユニットとも談話コーナーを、居間とは少し離れた場所に設けた。自室ではなく、このコーナーで一人で過ごされる方がおられ、独特の居心地の良さがあるのだと理解できる。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の家族が来られても、気を遣う事無く楽しく過ごされるように和室などを設けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は24時間作動とし、不快な臭いが籠らないように配慮している。また、冷暖房は、居室は個人の希望温度とし、共有スペースも利用者様の体調優先で調整している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則バリアフリーであるが、玄関は日本人の住宅感覚として段差のあるたたきとし、日常生活のなかでの履物の着脱には安全確認が必要である事を意識付けている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時間や空間の認識をできるだけ維持していただく為に、最も見やすいタイプの掛け時計を選び、カレンダーは、利用者様の共同制作による季節感のある絵柄の大きなものとし、またトイレは、扉をすべて若草色として、居室と識別しやすくしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の空間は、安全が確保されていると同時に、芝生と樹木、プランターによる季節感の演出がしやすく、パラソルつきのガーデンテーブルではお茶を楽しめたり、バーベキューパーティーも楽しんでいる。毎朝のラジオ体操、洗濯物干しも生活の活性化に有効かと思われる。		